V31a　JVO の研究開発（全体進捗）

○水本好彦、大石雅寿、白崎裕治、田中昌宏、川野元聡、大江将史 (国立天文台)、安田直樹 (東大宇宙線研)、本田敏志（ぐんま天文台）、増永良文（青山学院大）、石原康秀、堤純平、町田吉弘 (富士通)、中本啓之、小林佑介、坂本道人 (セック)

JVO は，2004 年 12 月に国際ヴァーチャル天文台連合 (IVOA; http://www.ivoa.net/) 標準の基盤技術に基づいて他国 VO との相互連携に成功し，JVO が提供するデータサービスは JVO の Web サイト (http://jvo.nao.ac.jp/) により 2006 年 8 月から試験公開されている。試験公開当時アクセスできた世界のデータサービスは 200 ほどであったが，その後の改良により，英国の AstroGrid の保有するメタデータへのアクセスができるように現在 600 以上のデータベースへの透過的なアクセスが可能となっている。また，スペクトルデータへのアクセス機能を充実させ，すばる HDS データの検索（コンティニウムレベルの表示，吸収線などの自動検出機能を含む）が可能となると共に，ワークフロー実行機能も充実させた。

試験公開後，JVO ポータルを利用してみたユーザーから，ユーザーインターフェースをより使いやすくして欲しいなどの要望が寄せられた。これらの要望を踏まえ，今年度前半はより利用しやすいインターフェースに改良する研究開発 （わかりやすさ，高速検索，等）を実施した。その詳細は，白崎の講演及びデモンストレーションによりご確認いただきたい。

今年度後半は，データサービスから取り込んだ各種データから天文学的知見をより容易に見いだすため，JVO ポータル内への標準的データ処理ソフトの取り込み，ユーザーのローカル環境のデータ解析ソフトを利用可能とするために JVO ポータルとローカルマシン間とのデータ共有機構の開発，などの開発を実施する予定である。